

# 描きながら伝える 『B M B(Birthday Month Bird)』 の ライブペイント・インタープリテーションの実践

島崎 野乃子 (岐阜県立森林文化アカデミー 森と木のクリエイター科 2年)

キーワード: 描きながら伝える、ライブペイント、絵、鳥、新しいインタープリテーション

## 1. 背景

幼少期の私にとって、身近な野鳥の観察は幸せな時間であり大切な居場所でもあった。そんな身近な自然の魅力を多くの人に伝えたいと思い、私は今、インタープリターになるための勉強を始めた。

そんな私だが、ひとつ大きな課題がある。実は大勢の前で話すことがとても苦手なのだ。人前に立つと緊張し、思うように伝えたいことが伝えられない。でもどうしても自然の魅力を伝えたい。何か良い方法はないかと模索していた。

そこで思いついたのが、私が得意としている「絵」の活用。しかも描き上げた絵で伝えるのではなく、「描きながら伝える」方法だ。得意な絵を通して話すことで私の緊張も和らぎ、話しやすくなるのではないかと。描きながら話すことで、参加者の注目を集めやすくなる上に、分かりやすくなるのではないかと考えた。

今まで、参加者に絵を描いてもらうプログラムはあっても、伝え手が絵を描きながら話すインタープリテーション (以下、IP) は見たことがなかった。もしこの方法が有効であれば、独自の IP スタイルを確立することができるのではないかと考えた。

## 2. 目的

本研究では、描きながら伝える IP プログラムを実践し、観察や聞き取りを通して以下4つのことを明らかにすることを目的とした。

- ① そもそも自分自身が描きながら伝えることができるのか
- ② 自分がこの手法によって伝えやすくなるのか
- ③ 参加者のニーズや反応はどうか
- ④ 伝えたいメッセージを伝えることができるのか

## 3. 基礎調査

まずはどのような IP の手法が存在するのかを調べてみた<sup>1)</sup>。書籍で調べたところ、IP の先進国であるアメリカの国立公園では、以下のような様々な手法が実践されていることが分かった。

芝居や演劇、コスチュームや暮らしを再現する手法、人形を使ったトークや人形劇、空想の旅 (イメージ誘導)、ストーリーテリング、スライドトーク、楽器の演奏や歌を歌う手法、食材の採集や調理の体験・見学をする手法、生きた動物や毛皮や痕跡など一部をみせる手法、パネルを使った手法、創作活動、巣箱づくりや環境づくりなど行動を通して伝える手法、ネイチャーゲームなどアクティビティを通して伝える手法など、非常に多くの手法があることが分かった。中でも、ヨセミテ国立公園の名物インタープリター、シェルトン・ジョンソンが、得意技の「詩」や「ストーリーテリング」を使ってインタープリテーションする姿を動画で見て<sup>2)</sup>、特技を活用することの強みを実感したとともに、背中を押される気持ちにもなった。

なお、伝え手が絵を描きながら伝える手法の実践例は、今回見つけることができなかった。引き続き調査を進めていきたい。

## 4. 実践計画

まずは「描きながら伝える IP」を実践してみることにした。  
<テーマ>

「身近な鳥」 \*手法も (絵) 対象も (鳥) 特技で攻めた。  
<ねらい>

- ① 全て同じように見える鳥も、実はたくさん種類があって異なる形や生活をしていることを知る。
- ② ①を通して、身近な鳥の存在や違いに気づくようになる。

<対象>

2021年4月24日(土) 25日(日) ふもとつばら (静岡)  
野外フェス『GO OUT CAMP vol.16』の来場者。

フェスに来た通りすがりの親子連れが主な対象。

<ポイント・条件>

- ① 20分程度で完結するショートプログラムにした。  
→ 目的が他にある通りすがりの参加者であるため。  
→ コロナ感染症予防のため、1回1組とした。
- ② 絵を描く先を、バードコールのボディにした。  
→ フェス参加者が目をとめそうなアイテム。  
→ すぐに使えて、家に帰っても継続しそうなもの。  
→ 音がして広報効果もあり、他人に教えてくなる。
- ③ 「誕生月の鳥」 (=BMB)  
→ 鳥を自分ごとにしてもらうための工夫  
→ 住宅地や森、水辺など異なる環境に暮らす身近な鳥を見やすい時期などに分けて各月3種落とし込んだ<sup>3)</sup>。

表1 誕生鳥一覧

1月	2月	3月	4月	5月	6月
スズメ	ツグミ	ウグイス	メジロ	カワラヒワ	キジバト
キジ	フクロウ	ヒバリ	ツバメ	シジュウカラ	オオルリ
コガモ	カワガラス	カフセミ	カルガモ	カワウ	カイツブリ
7月	8月	9月	10月	11月	12月
トビ	トラツグミ	ハシブトガラス	モズ	ヒヨドリ	ジョウビタキ
サンコウチョウ	カッコウ	ハクセキレイ	コゲラ	エナガ	イカル
アオサギ	コサギ	アカゲラ	カケス	ヤマガラ	マガモ

凡例: 身近な鳥 森林の鳥 水辺の鳥

参加者が選んだ誕生鳥を、伝え手(筆者)がバードコールにアクリル絵具で描きながら、その鳥の特徴や生態を話す内容で実施した(写真1、2)。時間は10~15分程度、参加費は1000円。ふりかえり用に実践時に録音した。プログラムの流れは次のとおり。

- ① 参加者が受付でバードコールと鳥を決めてから開始。
- ② 選んだ鳥やバードコールの木についてのやりとりをする。  
例:「どこが好き?」「すべすべだね!」など
- ③ 鳥の写真パネルを見ながら、選んだ鳥がどんな色をしているか教えてもらい、パレットに絵の具を出す。

- ④ 描きながら、色、大きさ、形など、鳥の見た目の話をする。  
例：雌雄で色や模様が違う、大きさや形、見たことあるか等
- ⑤ 鳥の食べ物を描いたシートを見せ、自分の選んだ鳥が何を食べているのか考えてもらう。食べものによってくちばしの形が違うことを伝え、実際に鳥になったつもりでペンチで木の実の殻を割ったりピンセットで虫に見立てた糸を掴んだりしてもらう。
- ⑥ 鳥の巣の絵をまとめたシートを見せ、その鳥の巣はどれか考えてもらう。様々な形や素材の巣があることを伝える。
- ⑦ どんな場所でその鳥に出会えるのかを確認した後、身近な鳥には赤、森林の鳥には緑など生息環境ごとに色の異なるパラコードをバードコールに通して、首からぶら下げてあげる。
- ⑧ フェス会場や自分の家の近くで探してみてね、と伝えて終了。



写真1 プログラム中の様子



写真2 ペイントしたバードコール

## 5. 結果・考察

### ① 描きながら伝えることができるか

描きながらでも、充分話すことができるとわかった。

### ② 伝えやすくなるか

絵を介することで、私自身も参加者も視線が手元へと集中するため、緊張が和らいで話しやすかった。また、伝えたい内容を絵で見せることができ、何もない状態で話すよりも内容が伝わりやすくなったと感じた。

### ③ 参加者のニーズや反応

15分1000円のプログラムに、2日間で47人の参加者が集まった。この結果からもニーズがあると考えられる。

また、当日同じエリアで活動していた自然学校スタッフからも「話

し手が描きながら伝えるプログラムは珍しい。話し手が描くことでこちらの伝えたいことが伝わりやすくして良いプログラムだと思う。」とありがたいコメントをいただいた。新しい伝え方として業界内でもニーズがあるのではないかと考えられる。

### ④ 伝えたいメッセージを伝えることができるのか

目の前で絵が出来上がっていくことで、参加者は絵を描いている手元に集中していた。また剥製や羽といった『本物』や、えさシートなどの小道具を併用することで、プログラムによりひきつけることができた。36種の鳥がいることで、他の誕生鳥と姿を見比べ、そこに関連した生態や生息環境の違いを伝えることができた。

参加後、母親に「メジロにミカンとリンゴ買って！」と話す子や、翌日「さっきトビ見たよ！」と報告しに来てくれた子がいた。

鳥に対する興味関心の高まり、存在の気づき、生態（餌）の把握が確認でき、伝えたいことが伝わったのではないかと感じた。

### ⑤ その他の気づき

今回は、感染症対策として、対面式ではなく、インタープリターと参加者が肩を並べて実施する形態をとった。その結果、参加者の反応や集中など細やかな変化を、肌で感じる事ができた(写真1)。

また、対面式とは異なり、参加者と共通体験（共同作業）をしているような感覚や、インタープリターと参加者との「つながり」を感じ、新しいIP手法としての可能性を強く感じた。

また、この様子を見てブースの前で足を止めて覗く通行者が多くいた。描いて伝える手法そのものに集客力があることも分かった。

## 6. 今後に向けて

以上のように充分な手応えと可能性を感じた今回のプログラムだが、実践を通して見えてきた課題もあった。

- ・一部参加者から「授業みたい」「勉強になったね」といった感想があった。単なる情報の伝達になってしまった回もあったようだ。
- ・描いてる手元と話がうまくリンクさせられなかった回もあった。
- ・小道具の内容や見せ方に改善の余地があった。

次回の実践では、これらの点を改善し、より魅力的なIPの手法となるようこころがけたい。

## 7. 皆さんにお願い

今後も、インタープリテーションの新スタイルとして確立できるよう、実践と改善を重ねていきたい。そのためにも、以下のことについて、皆さんからの協力をいただけたら幸いです。

- ・既存のインタープリテーションの様々な手法についての情報提供
- ・本プログラムの実践の場を募集中！私が出張プログラムします！
- ・本プログラムについてのアドバイスやコメント

○連絡先：岐阜県立森林文化アカデミー 島崎野乃子（のこ）

メール [nono.hisui@gmail.com](mailto:nono.hisui@gmail.com)

## 参考文献

- 1) キャサリン・レニエ, マイケル・グロス, ロン・ジーマン, 1994, 『インタープリテーション入門—自然解説技術ハンドブック』, 小学館
- 2) シェルトン・ジョンソンのインタープリテーションの様子「Shelton Johnson at Yosemite National Park (part 1)」  
<https://www.youtube.com/watch?v=JTsbeNtpA48>
- 3) 叶内拓哉, 安部直哉, 上田秀雄, 2014, 『山溪ハンディ図鑑7 新版 日本の野鳥』, 山と溪谷社